

# 三条市都市計画マスタープラン

〔平成 17 年度アンケート調査結果の概要〕

<市民アンケート>

<事業所アンケート>



# 1 . 調査の概要

---

## (1) 市民アンケート調査

市民を対象に、アンケート調査を実施しました。  
調査の概要と結果は次のとおりです。

実施対象：市民6,600人（無作為抽出）

実施時期：平成18年3月1日～17日

実施方法：郵送による配布回収

回収状況：次表のとおり

回収状況

配布数	6,600 通
回収数	2,487 通
回収率	37.7 %

## (2) 事業所アンケート調査

市内事業所を対象に、アンケート調査を実施しました。  
調査の概要と結果は次のとおりです。

実施対象：市内事業所2,500社（無作為抽出）

実施時期：平成18年3月1日～17日

実施方法：郵送による配布回収

回収状況：次表のとおり

回収状況

配布数	2,500 通
回収数	909 通
回収率	36.4 %

## 調査対象地区の区分

このアンケート調査では、回答者の居住地、事業所の所在地を下図に示す区分で調査しています。



## 評価点の計算方法について

「問10 地域の生活環境への評価」「問12 公共施設等への評価」については、評価点（回答の点数化）により評価を行っています。評価点の算出方法は、以下のとおりです。

### 【評価点の計算方法】

$$\text{評価点} = \frac{(2 \text{点} \times \text{満足票数} + 1 \text{点} \times \text{やや満足票数} - 1 \text{点} \times \text{やや不満票数} - 2 \text{点} \times \text{不満票数})}{\text{回答票数の合計 (わからない、無回答を除く)}}$$

満足 (とても重要) : + 2 点	やや満足 (やや重要) : + 1 点
不満 (重要でない) : - 2 点	やや不満 (あまり重要でない) : - 1 点

例) 満足30票  $\times$  (+ 2) + やや満足10票  $\times$  (+ 1) + やや不満15票  $\times$  (- 1) + 不満10票  $\times$  (- 2) = 60 + 10 + (- 15) + (- 20) = 35点 ( A とします)

A を満足 ~ 不満までの回答数 (わからない、無回答を除いた回答数) で割った値が評価点となります。

$$35 \text{点} \div 65 \text{票} = \underline{0.54} \quad \text{評価点}$$

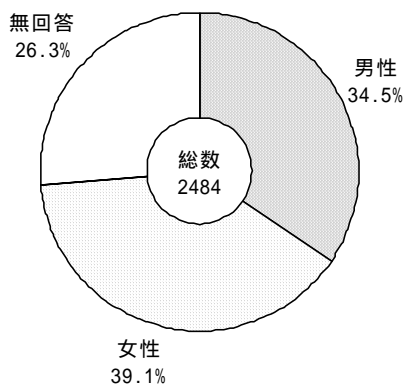
評価点がプラスのものは、総じて評価が高いと考えられ、逆にマイナスのものは評価が低いと考えることができます。

## 2. 調査結果の概要

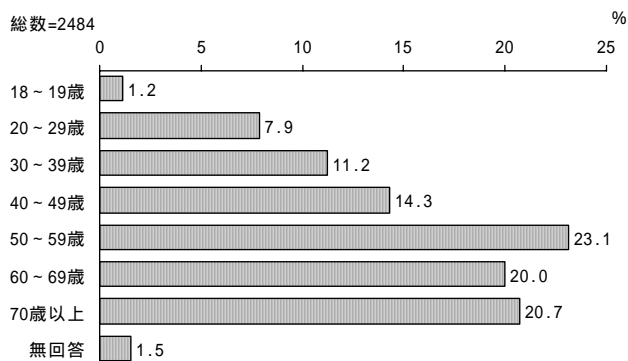
### (1) 市民アンケート調査

#### 【回答者の属性】

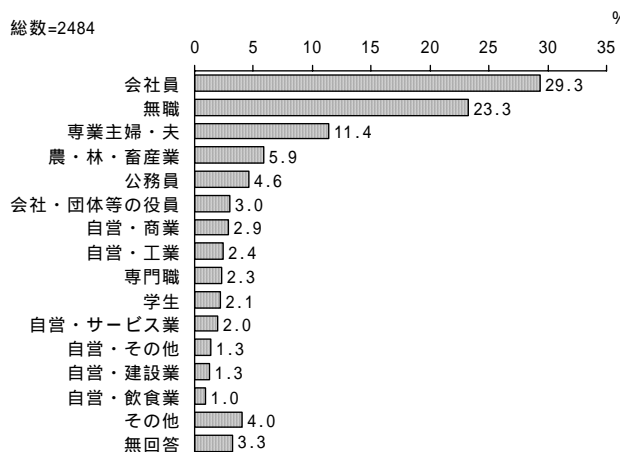
##### < 性別 >



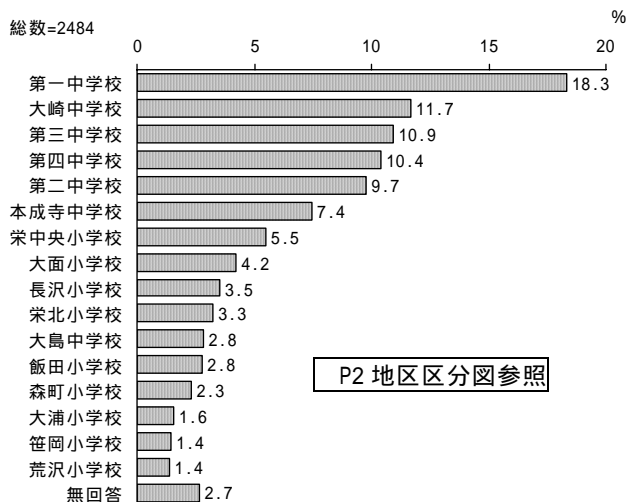
##### < 年齢 >



##### < 職業 >

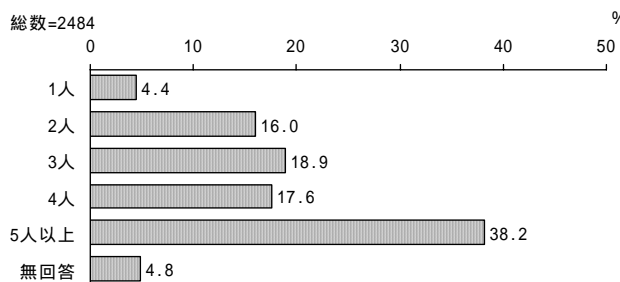


##### < 居住地区 >

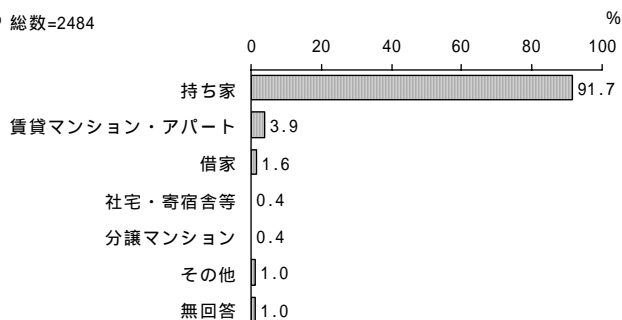


P2 地区区分図参照

##### < 家族構成 >

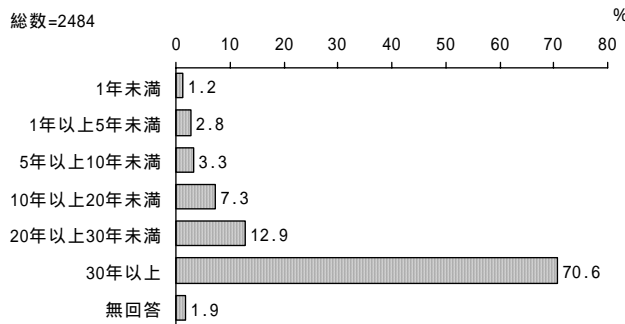


##### < 住居種類 >

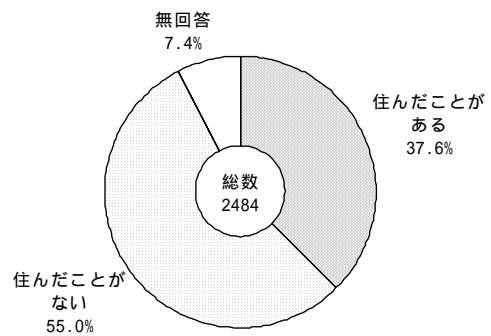


【回答者属性(つづき)】

< 居住年数 >



< 三条市以外での居住歴 >

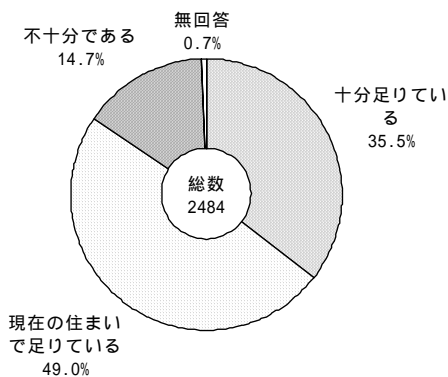


【住居の状況と今後の意向(問2・問3)】

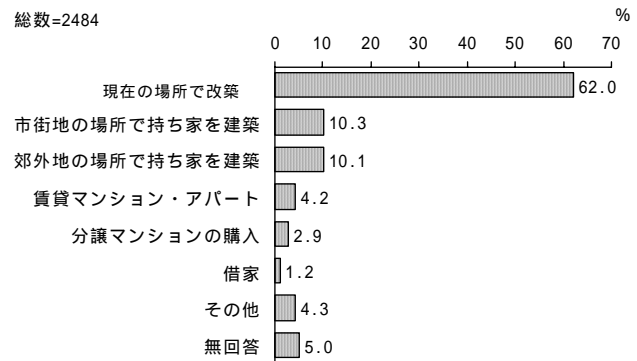
現在の住居に対する充足度は、「不十分」とする回答者は14.7%にとどまっており、「十分」を含め、「充足している」とする回答者は84.5%に達しています。(問2)

改築等に関わる今後の意向については、「現在の場所で改築」が62.0%と最も多く、「市街地内の他の場所」が10.3%、「郊外の他の場所」が10.1%で続いています。「持ち家」が82.4%に達しており、持ち家志向が高いことがうかがわれます。

< 住居の状況 >



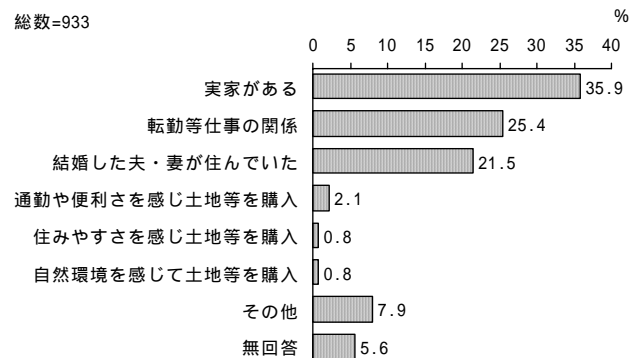
< 改築等今後の意向 >



【参考 - 三条市を居住地として選択した理由】

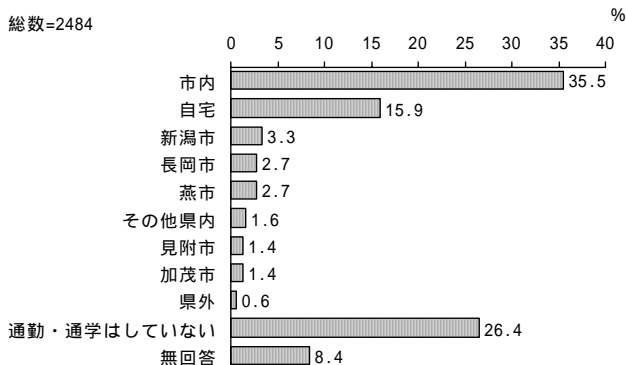
本市を居住地として優位性を探るため、居住地として選択した理由に関わる設問を設定しました。

「実家がある」「仕事の関係」「配偶者が居住していた」といった地縁や血縁による回答が多く、「住みよさ」といった居住地としての積極的な評価に基づくものとする理由は少ない結果となりました。



【日常的な生活圏の状況：通勤・通学(問4)】

日常的な暮らしに関わる活動のうち、通勤・通学については、「市内」が35.5%と最も多く、自宅を含めた市内を通勤・通学先とする回答者が約半数を占めました。市外については、「新潟市」の3.3%、「長岡市」「燕市」の2.7%にとどまっています。

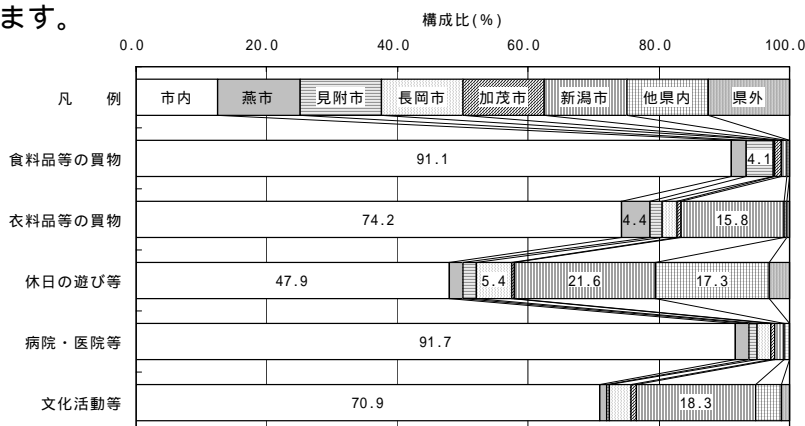


【日常的な生活圏の状況：買物、余暇活動など(問7)】

日常的な暮らしに関わる活動の行き先については、「食料品等の日用品の買物」「病院・医院等」が市内となっており、それぞれ91.1%、91.7%を占めています。

また「衣料品等の買回品の買物」「休日の遊びや外出」「教養・文化活動」についても、市内が最も比率が高くなっていますが、新潟市を行き先とする回答がそれぞれ15.8%、21.6%、18.3%と相対的に高くなっています。

以上のことから、日常的な暮らしに関わる活動は、ほぼ市内で充足している一方で、休日等における買物や余暇などの諸機能については、新潟市等への流出・活動範囲の拡大傾向がうかがわれます。

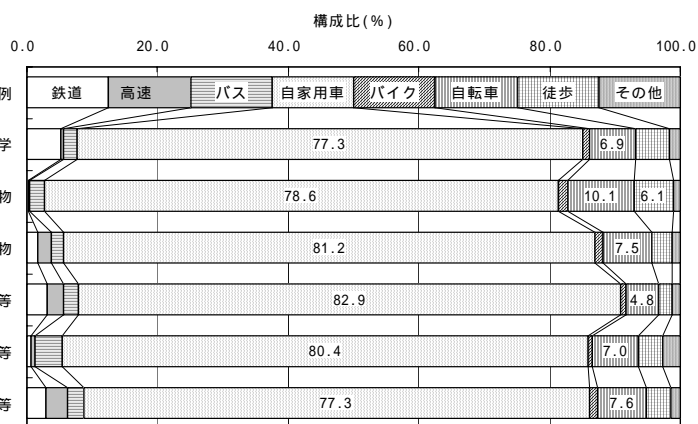


【生活に関わる諸活動の際の利用交通手段(問5・問8)】

生活に関わる諸活動の際の利用交通手段については、いずれの活動も「自家用車」の利用が約80%を占めており、日常・非日常を問わず、生活には自家用車が不可欠な状況にあることがうかがわれます。

食料品等の日用品の買物についても、徒歩によるものは10.1%にとどまっております。問8の回答とあわせて考えれば、「近所の比較的規模の大きなスーパーに、自家用車を利用して買物に行く」という行動パターンにあるものと考えられます。

新潟市を行き先とする余暇活動などについては、鉄道及び高速バスの利用が比較的多くなっています。



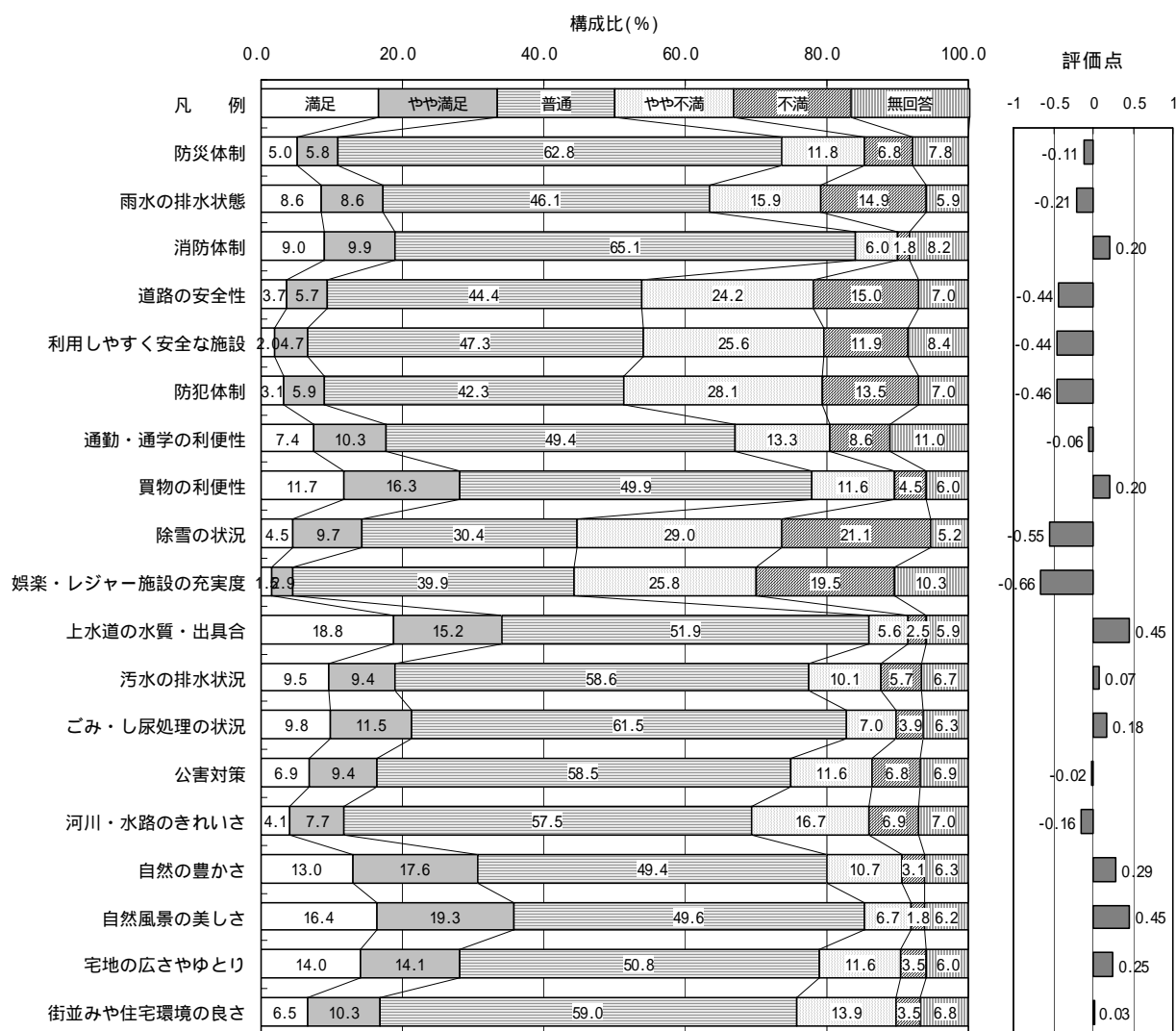
【地域の生活環境への評価(問10)】

身の回りや地域の生活環境への評価については、全体的な傾向として「衛生性」「快適性」に関わる生活環境の要素に対する評価が相対的に高く、「安全性」「利便性」に関わる要素に対する評価が相対的に低い結果となっています。

生活環境の要素のうち、「自然風景の美しさ」「上水道の水質・出具合」への評価が最も高く、「自然の豊かさ」「宅地の広さやゆとり」「買物の利便性」の順で続いています。

一方、評価の低い生活環境要素は、「娯楽・レジャー施設の充実度」が最も低く、「除雪の状況」「防犯体制」「道路の安全性」「高齢者等が利用しやすく安全な施設」の順で続いています。

このように、自然環境の豊かさを基盤とした暮らしの場としての環境については、満足度が高いものの、都市としてのにぎわいや安全・安心などに関わる生活環境要素への満足度は低く、その改善が望まれているものと考えられます。



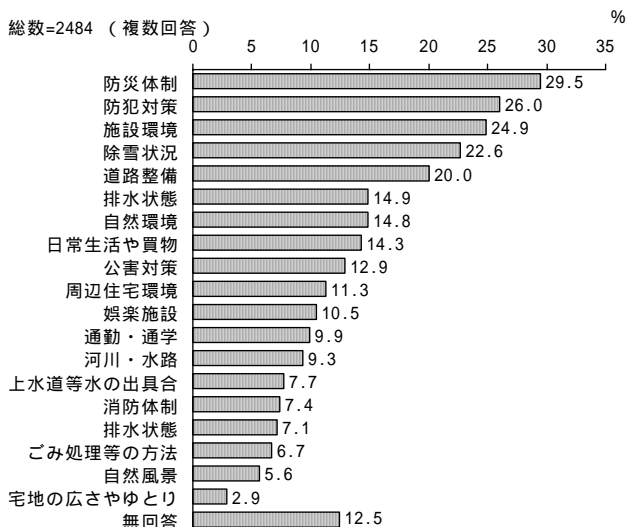
注) 評価点の計算方法については、P2を参照してください。



### 【重視する生活環境要素(問11)】

重視する生活環境要素については、評価の低い要素を中心に上位が構成され、最も回答の多かった「防災体制」が29.5%、以下、「防犯対策」「高齢者等が利用しやすく安全な施設」「除雪の状況」「道路整備」の順で続いています。

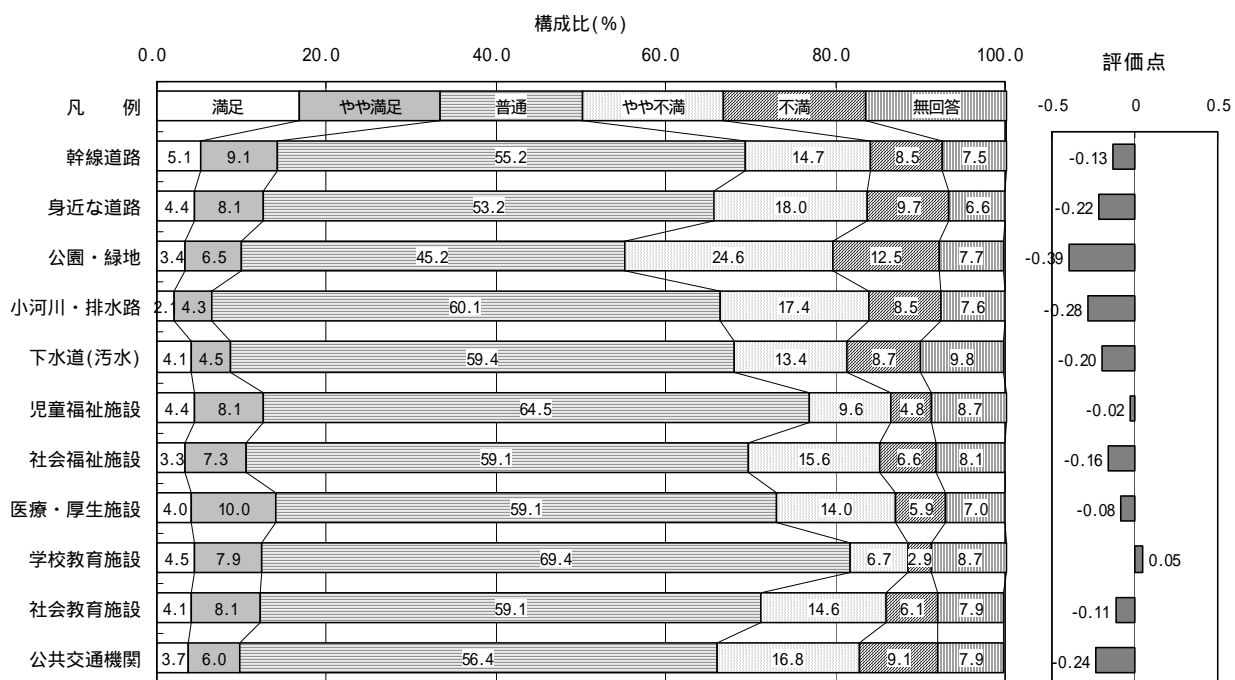
これらからは、最も評価の低かった「娯楽・レジャー施設の充実度」を重視する度合いが低い一方で、近年の水害や地震の発生や治安の悪化などを背景に、何よりも暮らしの場として必要不可欠な地域の安全や安心に関わる要素を重視していることがうかがわれます。



### 【公共施設等への評価(問12)】

公共施設等への評価については、「学校教育施設」を除いてマイナス評価となっています。

評価の低い生活環境要素は、「公園・緑地」が最も低く、「小河川・排水路」「公共交通機関」「身近な道路」「下水道(汚水)」の順で続いています。



注) 評価点の計算方法については、P2を参照してください。

【地域の生活環境への評価(問10)】<地区別>

	全体	大崎 中学校	大島 中学校	第一 中学校	第三 中学校	第四 中学校	第二 中学校	本成寺 中学校	栄中央 小学校	栄北 小学校	大面 小学校	荒沢 小学校	笹岡 小学校	森町 小学校	大浦 小学校	長沢 小学校	飯田 小学校
1.防災体制	-0.1056	-0.1407	-0.0308	-0.3553	-0.0465	-0.1558	-0.1719	-0.0862	0.1057	0.0800	0.0412	-0.0968	0.2000	0.0196	0.3529	0.0244	0.1692
2.排水状態	-0.2114	-0.1470	-0.3125	-0.5648	-0.0833	-0.3975	-0.5111	-0.0444	0.0484	0.0658	0.1100	0.0323	-0.1176	0.1569	0.3243	0.0976	0.2500
3.消防体制	0.2009	0.1170	0.2239	0.1277	0.3166	0.0690	0.0946	0.2529	0.3115	0.4459	0.3918	0.1667	0.5313	0.1569	0.5135	0.1772	0.3594
4.道路整備	-0.4420	-0.5348	-0.4627	-0.4895	-0.3538	-0.4893	-0.5903	-0.4432	-0.2480	-0.3108	-0.2245	-0.4194	-0.4375	0.0192	-0.1667	× -0.6420	-0.5000
5.施設環境	-0.4448	-0.5358	-0.3692	-0.4087	-0.4198	-0.5063	-0.5364	-0.4463	-0.2764	-0.5270	-0.3438	× -0.7037	-0.5882	-0.1731	-0.1111	-0.6329	-0.2742
6.防犯対策	-0.4617	-0.5129	-0.3485	-0.5177	-0.3916	-0.5470	-0.4629	-0.5281	-0.5040	× -0.6000	-0.3438	-0.6071	-0.3529	-0.2692	-0.1111	-0.3086	-0.3077
7.通勤・通学	-0.0602	-0.1654	-0.4154	0.1358	0.1777	-0.1184	0.1389	-0.1105	-0.1102	-0.3378	-0.1064	-0.6071	-0.4375	-0.2292	0.2424	-0.2152	× -0.5238
8.日常生活や買物	0.2031	0.2784	0.1194	0.4032	0.5382	0.0586	0.1718	0.3898	-0.1111	0.0405	-0.1616	-0.4194	-0.2647	-0.1698	0.3243	0.0366	0.0000
9.除雪状況	-0.5537	-0.7653	× -0.8235	-0.6256	-0.4508	× -0.7878	-0.6000	× -0.7765	-0.3984	-0.3636	-0.2700	-0.2000	-0.1176	0.1509	-0.1622	-0.1205	-0.3077
10.娯楽施設の充実	-0.6563	× -0.7940	-0.4839	× -0.6998	× -0.6056	-0.7241	× -0.7742	-0.5774	× -0.6387	-0.4865	× -0.6484	× -0.7037	× -0.6765	× -0.3913	× -0.2432	-0.5750	-0.4576
11.上水道等水の出具合	0.4484	0.5217	0.5362	0.4533	0.6302	0.4226	0.5000	0.4056	0.0894	-0.2703	0.4747	0.2581	0.3333	0.5385	0.8378	0.3902	0.7969
12.排水状態	0.0747	-0.0333	-0.0758	0.0326	0.2031	-0.1453	-0.0306	0.0618	0.0732	-0.1316	0.5600	-0.0645	-0.0294	0.3529	0.7027	0.3086	0.4603
13.ごみ処理等の方法	0.1753	0.1181	0.1912	0.1465	0.2962	0.0338	0.1870	0.1629	0.1280	-0.1169	0.5000	-0.2188	0.1471	0.3396	0.4722	0.3125	0.4154
14.公害対策	-0.0208	0.0147	-0.2576	-0.0845	0.0420	-0.0708	-0.0655	0.0000	0.0656	-0.3467	0.0104	0.0333	-0.0294	0.3137	0.2162	-0.0633	0.2969
15.河川・水路	-0.1571	-0.0741	-0.1765	-0.3638	-0.1158	-0.2479	-0.2335	-0.1086	-0.2016	-0.3108	-0.1146	0.0968	0.0294	0.3396	0.1143	0.0854	0.3077
16.自然環境	0.2852	0.4453	0.1364	0.0094	-0.0154	0.3792	-0.0439	0.4045	0.2400	0.0933	0.6100	0.9677	0.6364	1.1636	1.0541	0.6220	1.0000
17.自然風景	0.4461	0.5906	0.4308	0.1513	0.1274	0.5500	0.1266	0.6243	0.4603	0.3684	0.7273	1.0968	0.7941	1.1698	1.2162	0.7000	1.0313
18.宅地の広さやゆとり	0.2504	0.2327	0.3134	-0.0370	-0.0421	0.2875	-0.0830	0.4056	0.4836	0.5065	0.5567	0.5806	0.8529	1.0189	0.7838	0.6173	0.9846
19.周辺住宅環境	0.0250	-0.0147	0.2090	-0.1311	-0.1679	0.0426	-0.1790	0.0899	0.1393	0.2368	0.1327	0.1875	0.2424	0.6275	0.5556	0.2125	0.5079

丸数字は生活環境要素ごとの順位(青字が上位3位、赤字が下位3位)

記号は地区別の順位( : 第1位、 : 第2位、 : 第3位、× : 第19位(下位第1位)、 : 第18位(下位第2位)、 第17位(下位第3位))

【公共施設等への評価(問12)】<地区別>

	全体	大崎 中学校	大島 中学校	第一 中学校	第三 中学校	第四 中学校	第二 中学校	本成寺 中学校	栄中央 小学校	栄北 小学校	大面 小学校	荒沢 小学校	笹岡 小学校	森町 小学校	大浦 小学校	長沢 小学校	飯田 小学校
1.幹線道路	-0.1336	-0.2601	-0.1194	-0.1327	-0.0581	× -0.4017	-0.2838	-0.1136	0.1048	0.0897	0.1684	-0.1250	-0.0303	-0.0204	0.2857	-0.2949	0.1875
2.身近な道路	-0.2189	-0.3129	-0.2537	-0.3404	-0.1673	-0.2822	-0.3616	-0.2857	-0.0081	-0.0641	0.0521	0.0313	-0.1515	0.2245	× -0.1111	-0.2250	0.0313
3.公園・緑地	-0.3938	× -0.5382	× -0.5231	-0.4424	× -0.4170	-0.1899	× -0.6272	-0.2011	× -0.3833	× -0.5256	-0.2316	0.0000	× -0.4412	0.0455	0.0000	× -0.5125	× -0.2923
4.小河川 排水路等	-0.2793	-0.3285	-0.3231	× -0.4848	-0.2261	-0.2979	-0.4126	-0.1445	-0.1967	-0.2597	0.0104	-0.2188	-0.2353	0.0625	0.0588	-0.1795	-0.0159
5.下水道	-0.2009	-0.3494	-0.3448	-0.3382	-0.1512	-0.3777	-0.2455	-0.0694	-0.1017	-0.1974	0.3750	× -0.6400	-0.2903	0.0000	0.5000	0.0000	0.0938
6.児童福祉施設	-0.0247	0.0000	-0.2794	-0.0071	0.0474	-0.1154	-0.0762	0.0465	-0.0756	-0.0933	0.4211	0.1935	-0.1875	-0.1064	0.0000	-0.1538	-0.1803
7.社会福祉施設	-0.1616	-0.2481	-0.2742	-0.0967	-0.1801	-0.2936	-0.2342	0.0118	-0.0732	-0.2763	-0.0103	0.0938	-0.0625	-0.1458	0.1143	-0.2875	-0.1429
8.厚生施設	-0.0827	-0.0623	0.0000	-0.0370	0.0345	-0.1261	0.0271	0.0287	-0.2250	0.0127	× -0.3646	-0.2903	-0.2941	-0.2083	0.0000	-0.3038	-0.2424
9.学校教育施設	0.0485	0.0149	0.0303	0.0827	0.0934	0.0385	0.0184	0.0349	0.0583	-0.0395	0.0421	0.0645	0.1212	-0.0208	0.1429	-0.0759	0.0625
10.社会教育施設	-0.1128	-0.1978	-0.0455	0.0165	0.0192	-0.2275	-0.2579	-0.1207	-0.1653	-0.1795	-0.2553	-0.1290	0.0588	-0.2083	0.1667	-0.1750	-0.0149
11.公共交通機関	-0.2366	-0.2556	-0.2923	-0.2028	-0.1705	-0.1880	-0.2027	× -0.3314	-0.3577	-0.3289	-0.0632	-0.2188	-0.2647	× -0.3125	-0.0882	-0.3125	-0.4545

丸数字は生活環境要素ごとの順位(青字が上位3位、赤字が下位3位)

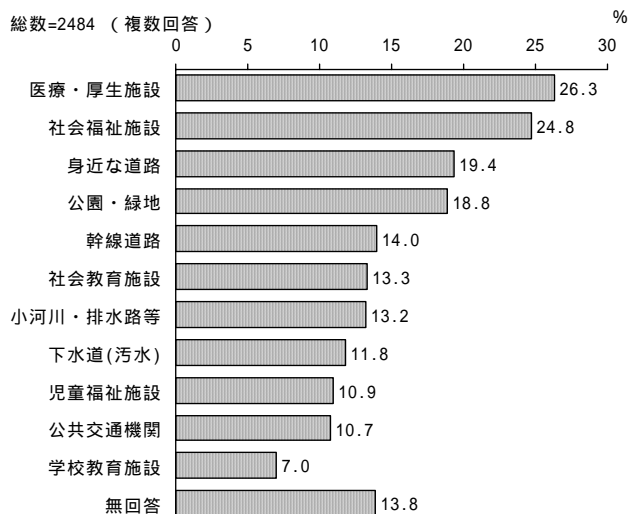
記号は地区別の順位( : 第1位、 : 第2位、 : 第3位、× : 第19位(下位第1位)、 : 第18位(下位第2位)、 第17位(下位第3位))

注) 評価点の計算方法については、P2を参照してください。

### 【重視する公共施設等整備(問13)】

整備・充実を重視する公共施設等については、最も回答の多かった医療・厚生施設(26.3%)は、現状の評価が相対的に高いなど、必ずしも評価が低い施設へのニーズが高いとはいえない状況にあります。

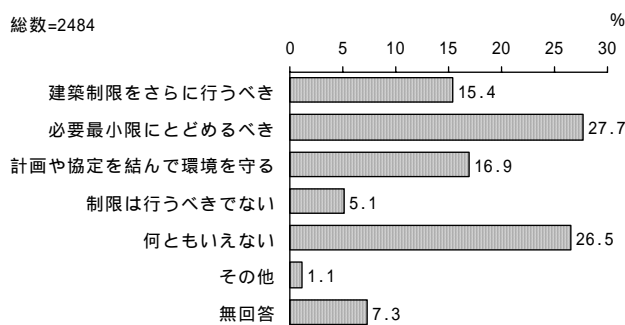
上位1・2位の「医療・厚生施設」「社会福祉施設」は、高齢社会にあることを背景とした『安心』に関わる施設、3・4位の「身近な道路」「公園・緑地」は、『暮らしの安全や快適性』に関わる施設と考えられ、現状の評価に関わらず、その整備が必要と考えられていることがうかがわれます。



### 【土地利用等のあり方：土地利用・建築制限(問14)】

土地利用・建築制限のあり方については、「必要最小限にとどめるべき」とする回答が27.7%で最も多く、「建築制限をさらに行うべき」「計画や協定を結んで環境を守る」とした地域の合意による制限などの積極的な考えはそれぞれ15.4%、16.9%となっています。

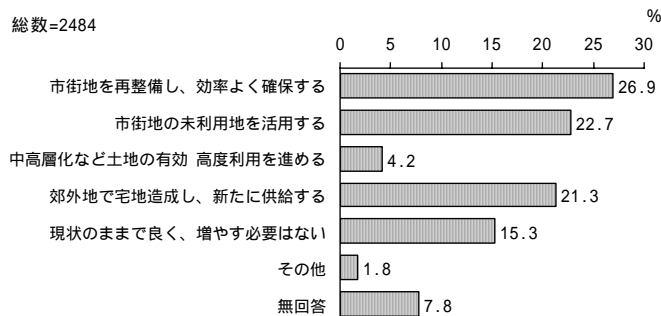
総じていえば、制限は不要とする考えは少ないものの、制限を進めることには必ずしも積極的ではない状況にあるといえます。



### 【土地利用等のあり方：住宅地(問15)】

住宅地確保の方策については、土地区画整理事業等の面整備手法によって「市街地を再整備し、効率よく確保する」への回答が最も多く、次いで「市街地内の未利用地を活用する」となっており、市街地の効率的な利用による住宅地確保への回答が相対的に多くなっています。

一方、「市街地の中高層化など土地の有効・高度利用を進める」は必ずしも志向されていないことがうかがわれます。

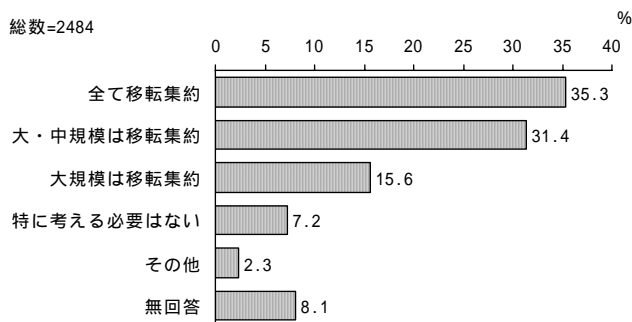


【土地利用等のあり方：工業地(問16)】

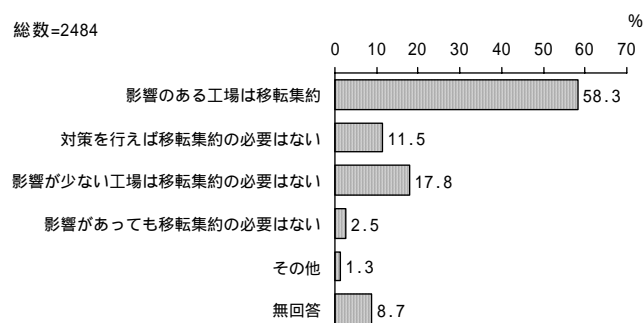
工場の立地のあり方については、規模面からは「規模の大小に関わらず移転・集約」とする回答が最も多くなっており、「大規模」「大・中規模」について移転集約を望む回答がある程度見受けられます。環境面からは「影響のある向上は移転・集約」とする回答が過半を占めていますが、「影響が少ない工場」または「対策を行った工場」の移転・集約は必要ないとする回答もある程度あることから、環境への影響が少なければ、一定程度の混在が許容可能と考えられていることもうかがわれます。

しかしながら、基本的には、規模や周辺への影響に関わらず、工業団地等へ移転集約することが望まれているものと考えられます。

< 規模による立地のあり方 >



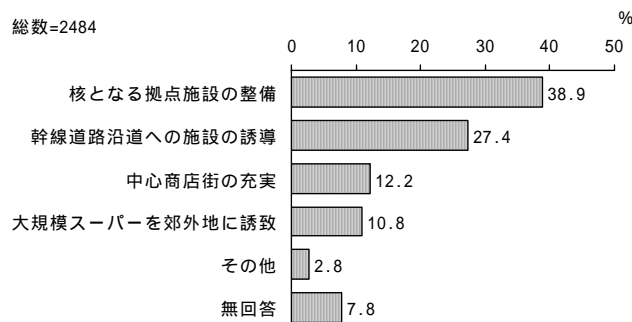
< 周辺への影響による立地のあり方 >



【土地利用等のあり方：商業地(問17)】

商業地のあり方については、「核となる拠点施設の整備と周辺商店街の一体的な活性化」とする回答が最も多く、「幹線道路への施設の誘導」が次いでいます。一方、「中心商店街の充実」や「大規模スーパーを郊外地に誘致」については、相対的に少なくなっています。

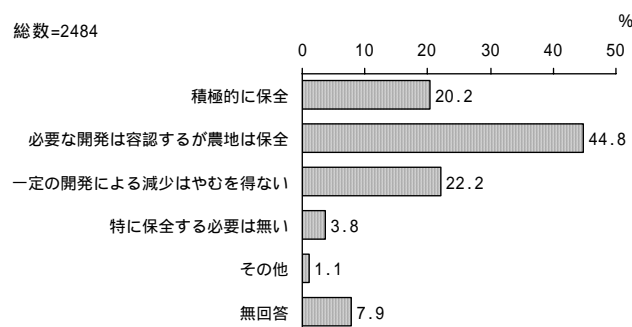
このことから、市民の意向として、市街地での核となる施設の立地と幹線道路への立地誘導による商業環境の充実を図っていく方向がうかがわれます。



【土地利用等のあり方：農地(問19)】

農地のあり方については、「積極的に保全」と「必要最小限の開発は容認するが農地は保全」をあわせた「保全」とする考え方が65.0%にのぼり、転用を容認する考え方の26.0%を大きく上回っています。

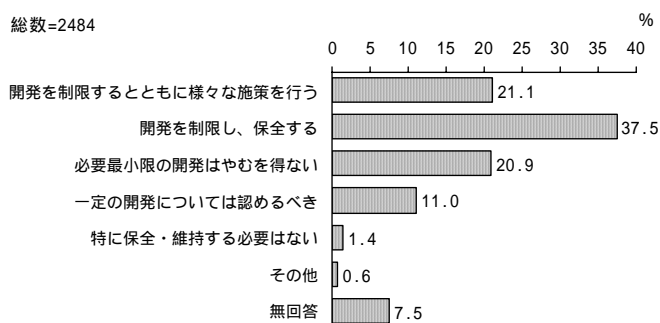
農地については、開発は必要最小限のものに限定し、保全を基本とするという考え方が、この結果からはうかがえます。



### 【自然景観の保全のあり方(問20)】

自然景観の保全のあり方については、「制限し、保全する」と「制限するとともに様々な施策を行う」をあわせた『保全推進』とする考え方が58.6%にのぼり、『開発を一定程度容認』する考え方の12.4%を大きく上回っています。

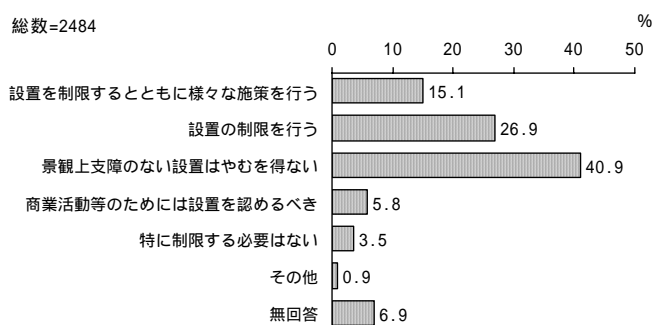
このことから、農地と同様に、開発は必要最小限のものに限定し、保全を基本とするという考え方が、この結果からはうかがえます。



### 【屋外広告看板のあり方(問21)】

屋外広告看板のあり方については、『制限する』との考え方は42.0%と半数を下回っていますが、『ある程度やむを得ないが景観上支障のない範囲で』と一定程度、景観上の配慮を求めるものを含めれば、82.9%が制限は必要と考えていると理解されます。

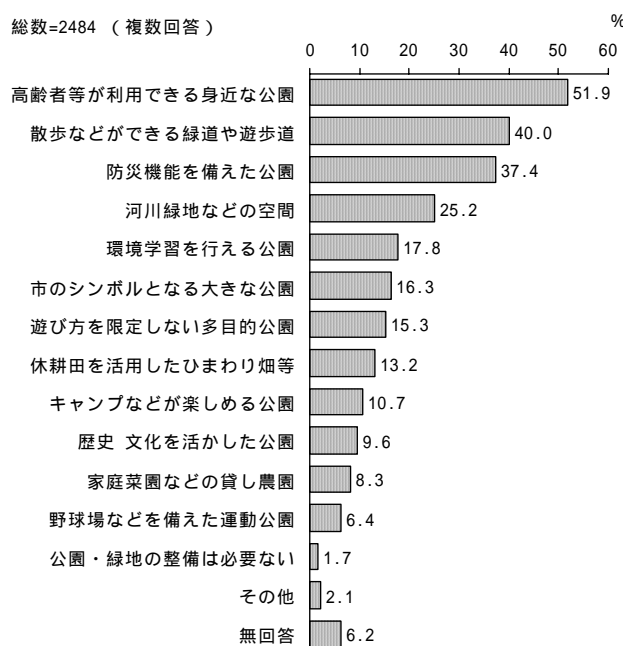
一方、「特に制限する必要はない」も含め、その設置を許容する考え方は、9.3%にとどまっています。



### 【公園・緑地に対するニーズ(問22)】

整備・充実が必要と考えている公園・緑地の種別については、「身近な公園」が51.9%と最も多く、「緑道・遊歩道」の40.0%、「防災公園」の37.4%が続いています。

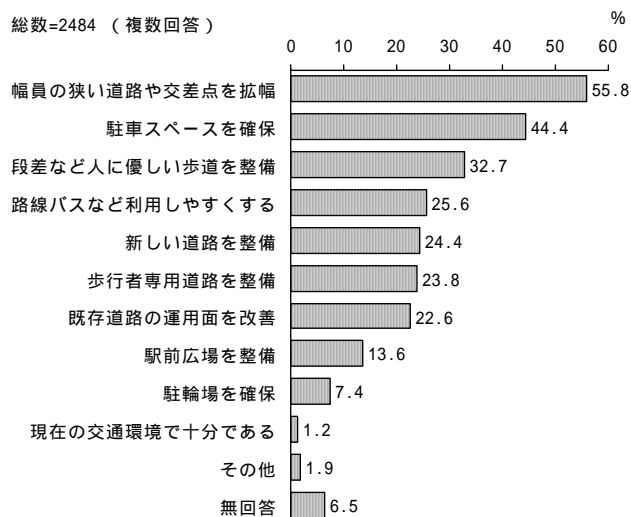
これらの結果からは、少子高齢社会を背景に、高齢者の憩いの場や子育て環境の要素として身近な場所にゆとりや快適性の感じられるオープンスペースが不可欠と考えていること、また、水害や地震災害に見舞われた経験から、災害時の避難や救援・復興に大きな役割を果たす機能の重要性を認識していることが背景にあるものと考えられます。



【道路・交通のあり方(問23)】

円滑・快適な交通の確保に必要な取り組みについては、「安全性や防災性を高めるための拡幅・交差点改良」が55.8%で最も回答が多く、「路上駐車解消のための駐車スペースの確保」の44.4%、「段差の解消・拡幅による歩道の確保」の32.7%が続いています。

これらの回答からは、市内の交通は道路幅員が狭いこと、このため歩行者空間も不足していること、またこれに加えて路上駐車により、交通の円滑性が損なわれていることが大きな問題として認識されていると考えられます。

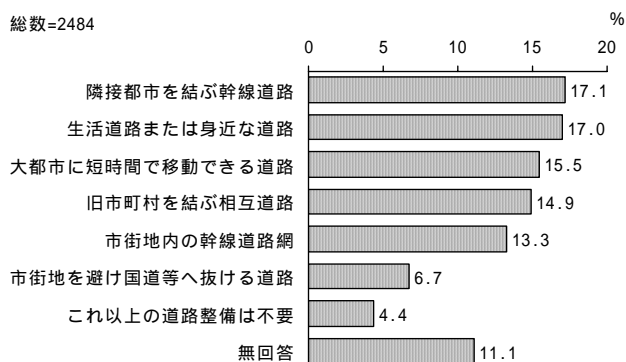


【整備を優先すべき道路機能(問24)】

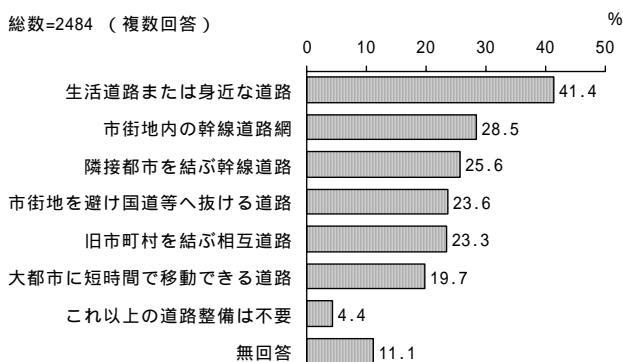
今後の道路整備について優先的に進めるべきと考える道路機能については、「隣接都市を結ぶ幹線道路」と「生活道路または身近な道路」がほぼ同じ割合で最も多くなっていますが、バイパス機能を除く他の道路機能とほとんど差が無く、回答は分散しています。一方、1位と2位の合計をみれば、「生活道路または身近な道路」が他の機能から突出する結果となっており、1番目もしくは2番目に優先度が高いとして選択されていることがうかがわれます。

これらの結果から、「生活道路または身近な道路」の整備に最もニーズがあると理解することができます。

< 優先順位 1 位 >



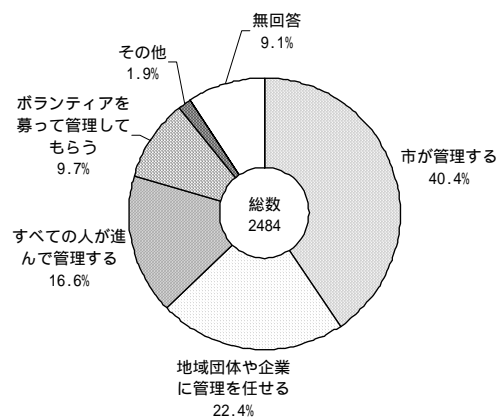
< 優先順位 1・2 位合計 >



【公共施設の管理主体のあり方(問25)】

公共施設の管理主体については、「市が管理」が40.4%で最も高く、公共施設は行政が管理するものという意識が依然浸透していることがうかがわれます。

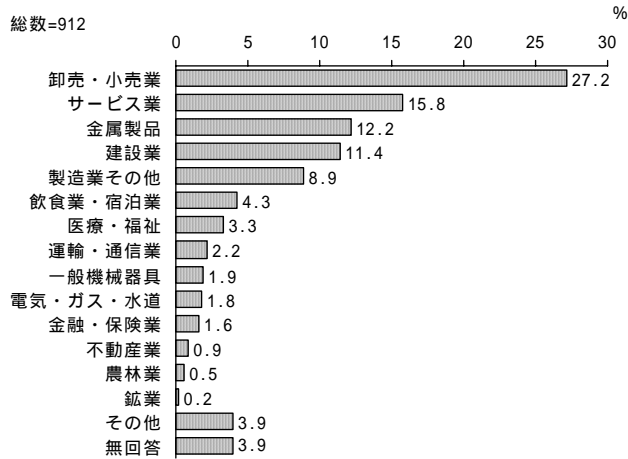
このため、「全ての市民による管理」「ボランティアによる管理」など、市民が主体となった管理は、26.3%にとどまる結果となっています。



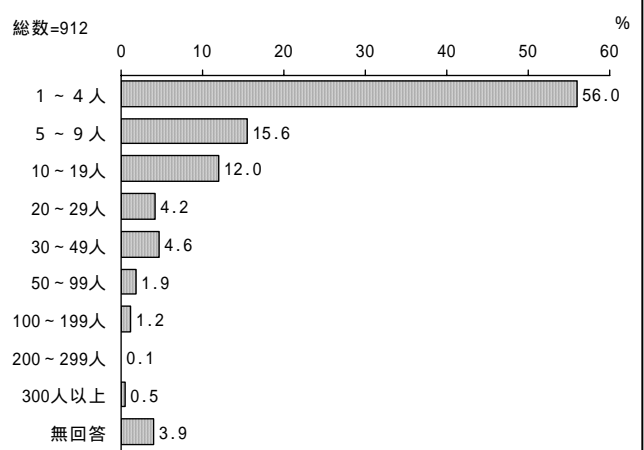
## (2) 事業所アンケート調査

### 【回答者の属性】

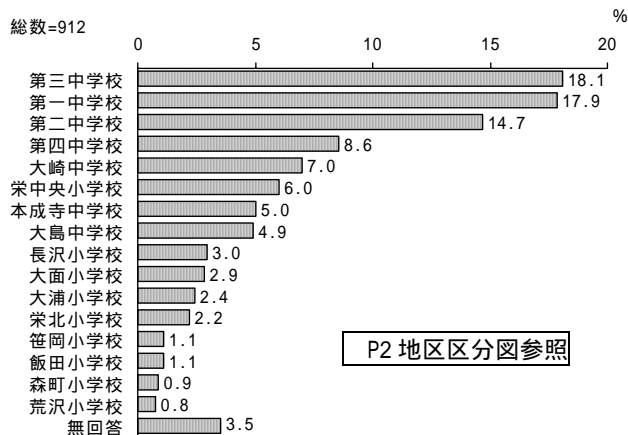
#### < 業種 >



#### < 規模 >

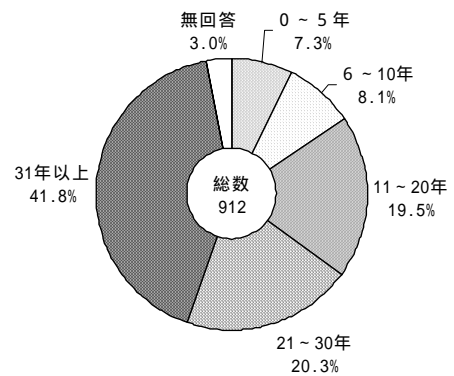


#### < 所在地 >

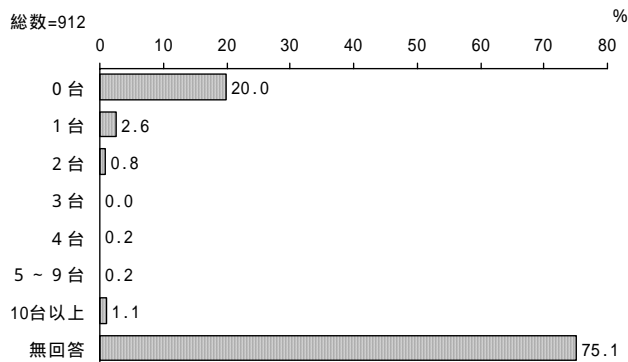


P2地区区分図参照

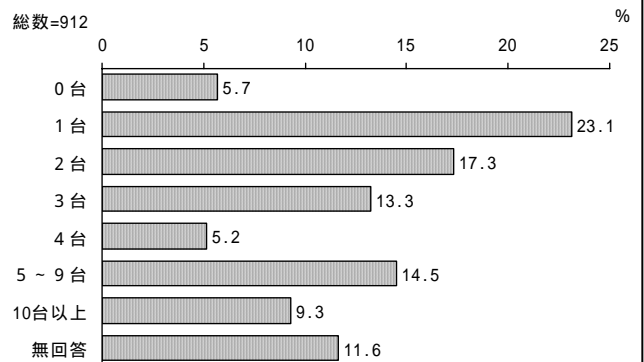
#### < 営業年数 >



#### < 積載量5t以上の大型トラック保有台数 >



#### < その他トラック・乗用車・商用車保有台数 >





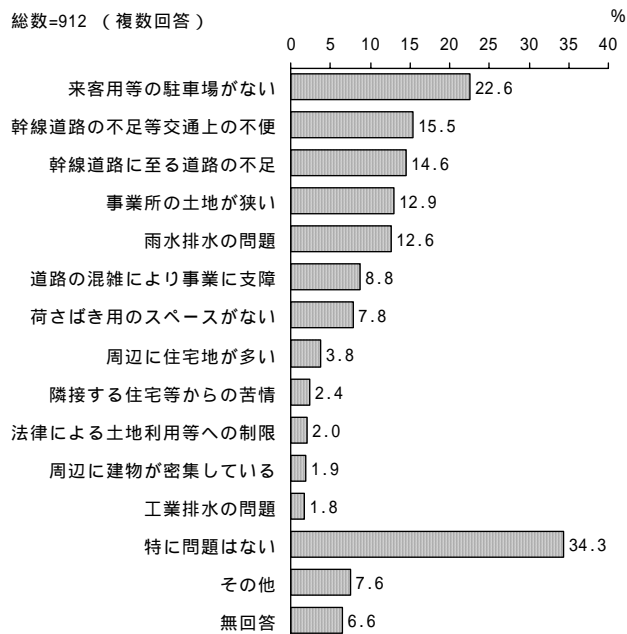
【事業活動を行う上での不都合な点(問6)】

事業を営む上で不都合となっている点については、「特に問題は発生していない」が34.3%で最も多く、ほぼ3事業所に1事業所は問題を抱えていない状況にあります。

発生している問題点で最も回答が多かったのが「来客用の駐車場がない」の22.6%で、「幹線道路の不足など交通上の不便さ」「幹線道路に至る道路の不足など交通上の不便さ」が続いています。

主要な業種について個別にみれば、金属製品製造業は「事業所の土地が狭い」が17.1%、一般機械器具製造業は「幹線道路に至る道路の交通上の不便」が29.4%、卸売り・小売業及びサービス業はいずれも「来客用駐車場がない、狭い」が28.2%、25.0%で最も多くなっています。

一般機械器具製造業は、道路に関わる問題点を不都合としている一方で、金属製品製造業、卸売り・小売業及びサービス業は事業用地の不足に関わる問題点を不都合としている点が特徴となっています。



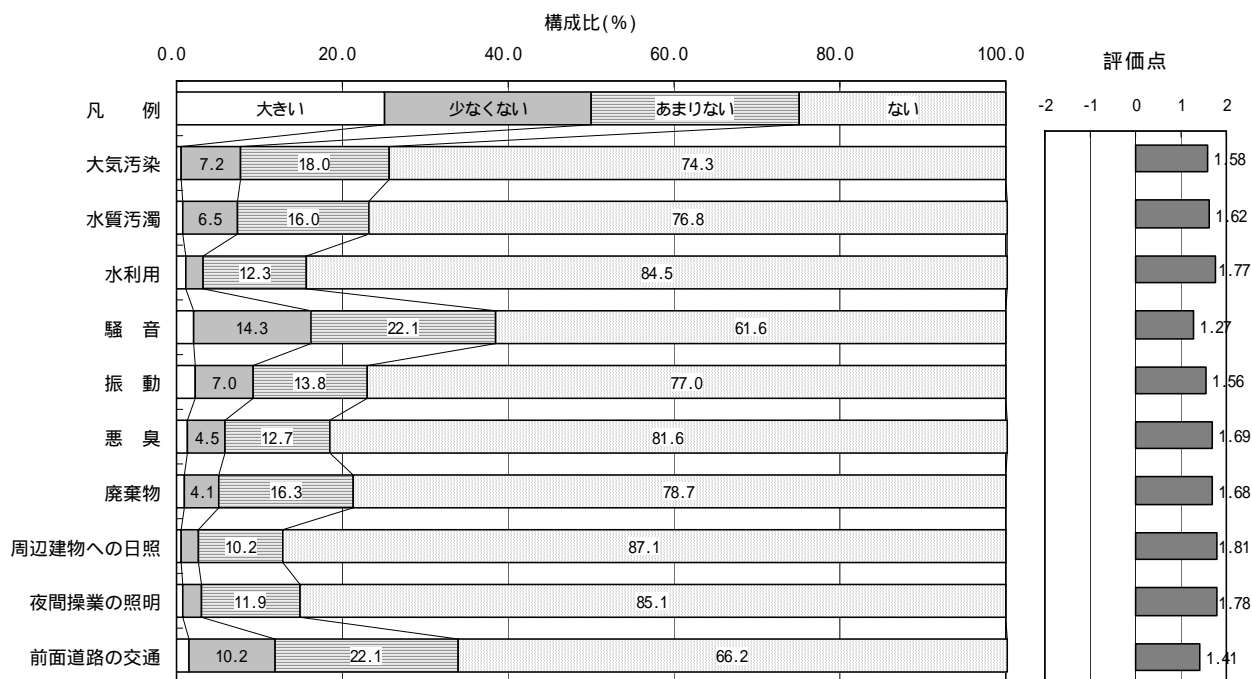
< 主要な業種別の回答 >

	製造業		卸売・小売業		サービス業			
	金属製品	一般機械器具	卸売・小売業	卸売・小売業	サービス業	サービス業		
第1位	土地が狭い	17.1	幹線道路に至る道路が不便	29.4	来客用等駐車場がない	28.2	来客用等駐車場がない	25.0
第2位	来客用等駐車場がない	16.2	幹線道路が不便	25.5	幹線道路が不便	20.6	雨水排水	11.8
第3位	荷さばきスペースがない	15.3	土地が狭い	17.6	雨水排水	14.1	幹線道路に至る道路が不便	11.1
参考	(特になし)	37.8	(特になし)	29.4	(特になし)	31.0	(特になし)	33.3

【周辺環境へ及ぼしている影響度(問7)】

周辺環境に及ぼしていると考えられる影響の度合いを評価点によってみれば、影響を及ぼしていると考えている順に「騒音」「前面道路の交通」「大気汚染」となっており、逆に及ぼしていないと考えている事項は、「日照」「夜間照明」「水利用」の順となっています。

主要な業種について個別にみれば、金属製品製造業は「騒音」が0.654、一般機械器具製造業が「大気汚染」の0.688、卸売・小売業が「前面道路の交通」の0.733、サービス業が「水質汚濁」の0.737で、それぞれ相対的に影響が大きいと回答しています。



< 主要な業種別の回答 >

	製造業				卸売・小売業		サービス業	
	金属製品		一般機械器具					
第1位	騒音	0.654	大気汚染	0.688	前面道路の交通	0.733	水質汚濁	0.737
第2位	振動	0.740	廃棄物	0.719	騒音	0.783	大気汚染	0.799
第3位	大気汚染	0.766	水利用	0.733	大気汚染	0.808	前面道路	0.819

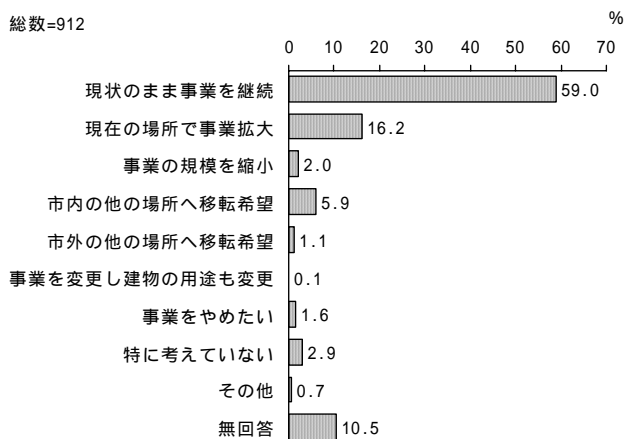
注) 評価点の計算方法については、P2を参照してください。

【今後の事業展開(問8)】

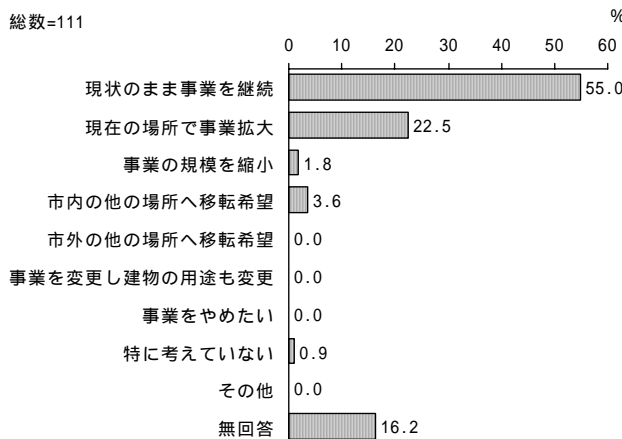
今後の事業展開については、59.0%が「現状のまま」としており、「現在の場所で事業を拡大」が16.2%で続いています。一方、移転については「市内での移転」が5.9%であるのに対し、「市外へ移転」は1.1%にとどまっています。また「事業を縮小」は2.0%、「廃業」は1.6%と比率は相対的に低くなっています。

主要な業種について個別にみれば、いずれの業種も「現状のまま」「現在の場所で拡大」「市内での移転」の順で多くなっています。

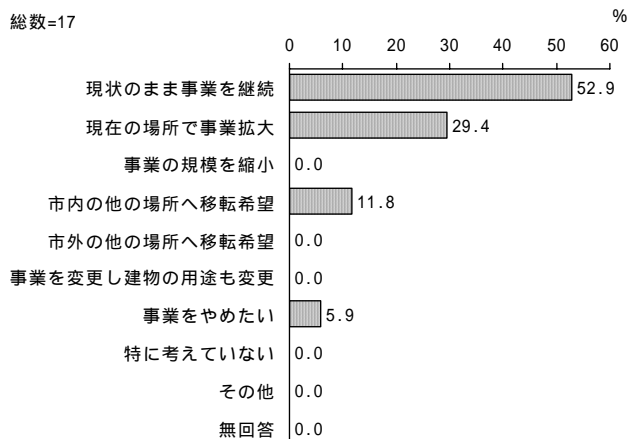
また、一般機械器具製造業で「事業をやめたい」が、卸売・小売業で「事業縮小」「市外への移転」の比率が相対的に高くなっており、現在の場所において何らかの事業・経営上の問題を抱えていることがうかがえます。



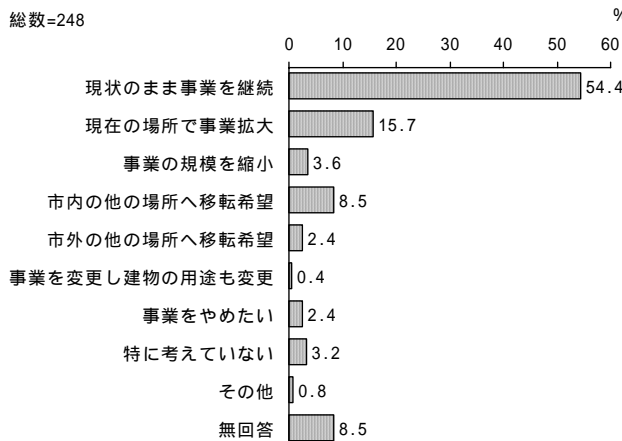
< 金属製品製造業 >



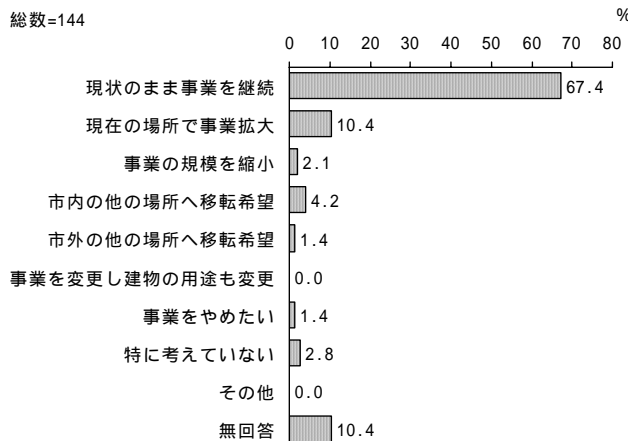
< 一般機械器具製造業 >



< 卸売・小売業 >



< サービス業 >

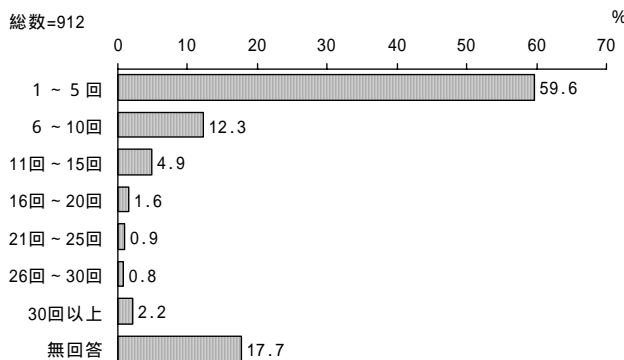


【主な橋りょうの利用状況(問10)】

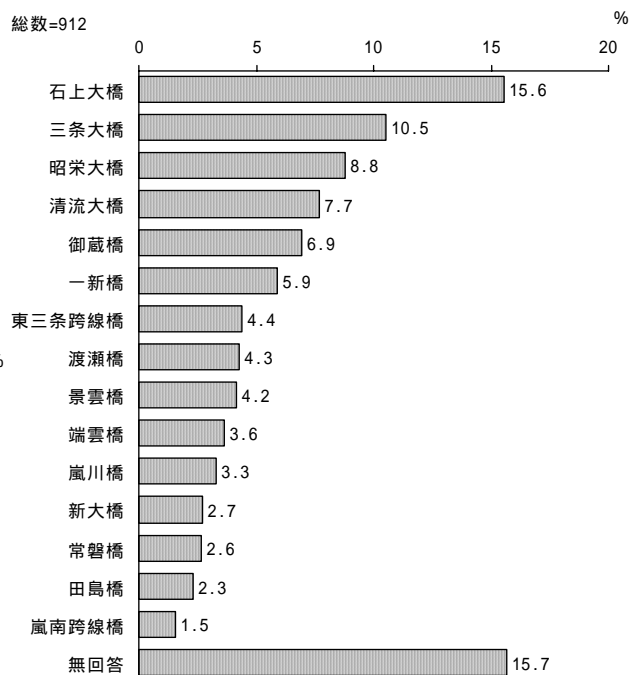
市街地に入入りする際に利用する橋りょう(河川に架かる橋及び跨線橋)で最も頻繁に利用するものは、「石上大橋」の15.6%が最も多く、「三条大橋」「昭栄大橋」が次いでいます。

利用頻度については、5回以内が59.6%を占めている状況にあります。

< 利用頻度 >



< 最も頻繁に利用する橋りょう >



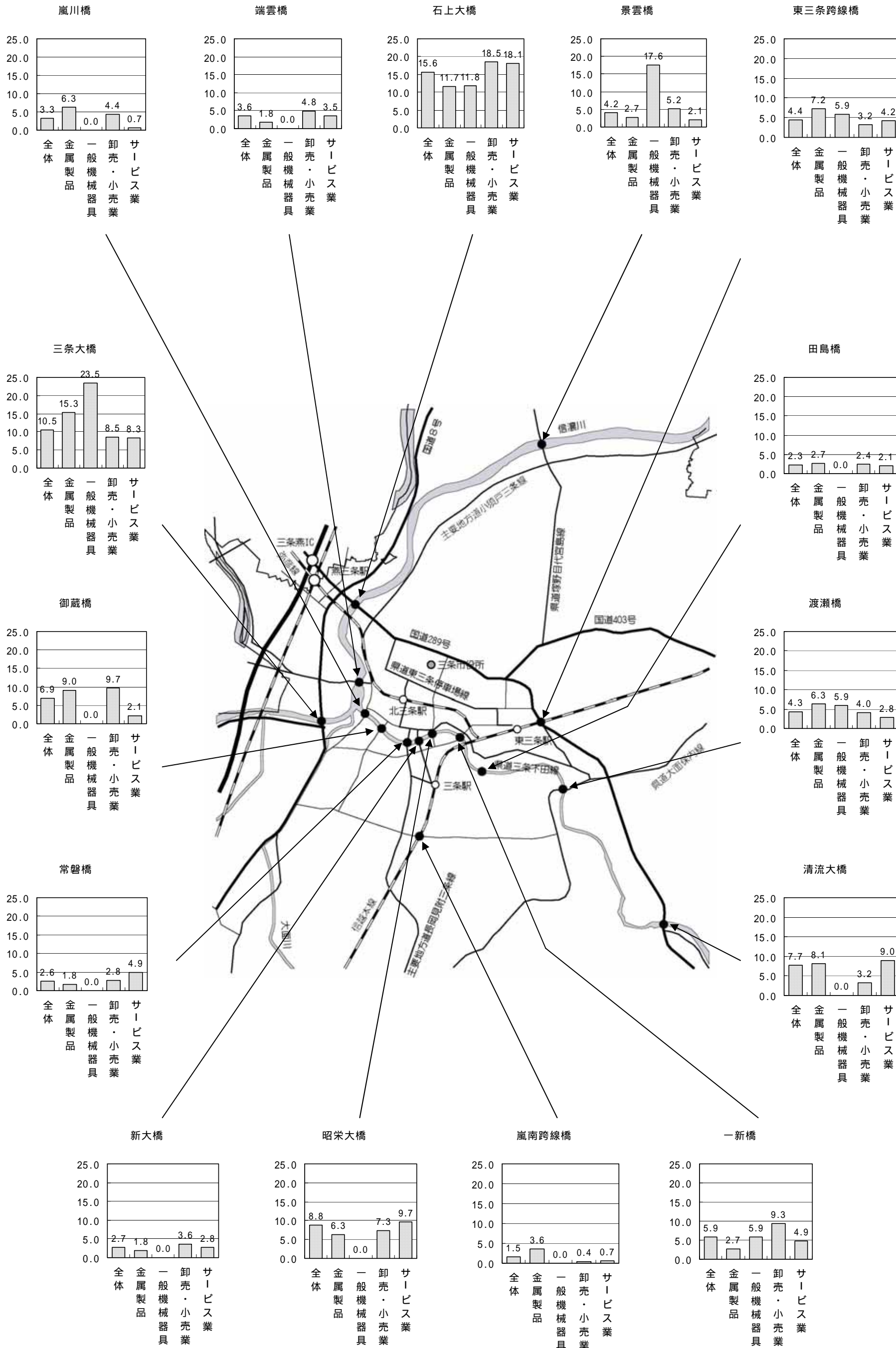
主要な業種について個別にみれば、金属製品、一般機械器具いずれの製造業も「三条大橋」が、卸売・小売業、サービス業はいずれも「石上大橋」がそれぞれ最も多くなっています。

また、上位3位の構成比を河川別に合計すると、製造業は信濃川を渡河する橋りょうの合計の比率が、卸売・小売業、サービス業は五十嵐川を渡河する橋りょうの合計の比率が高い点に特徴がみられます。

< 主要な業種別の回答 >

	製造業				卸売・小売業		サービス業	
	金属製品		一般機械器具					
第1位	三条大橋	15.3	三条大橋	23.5	石上大橋	18.5	石上大橋	18.1
第2位	石上大橋	11.7	景雲橋	17.6	御蔵橋	9.7	昭栄大橋	9.7
第3位	御蔵橋	9.0	石上大橋	11.8	一新橋	9.3	清流大橋	9.0
河川別 (上位3位の合計)	信濃川	27.0	信濃川	52.9	五十嵐川	19.0	五十嵐川	18.7
	五十嵐川	9.0	五十嵐川	0.0	信濃川	18.5	信濃川	18.1

図 主な橋りょうの利用状況

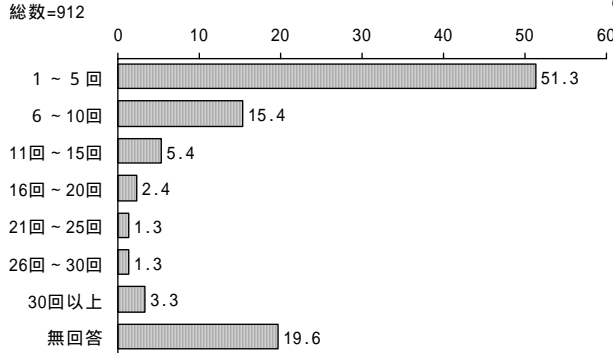


【主な通過箇所の状況(問11)】

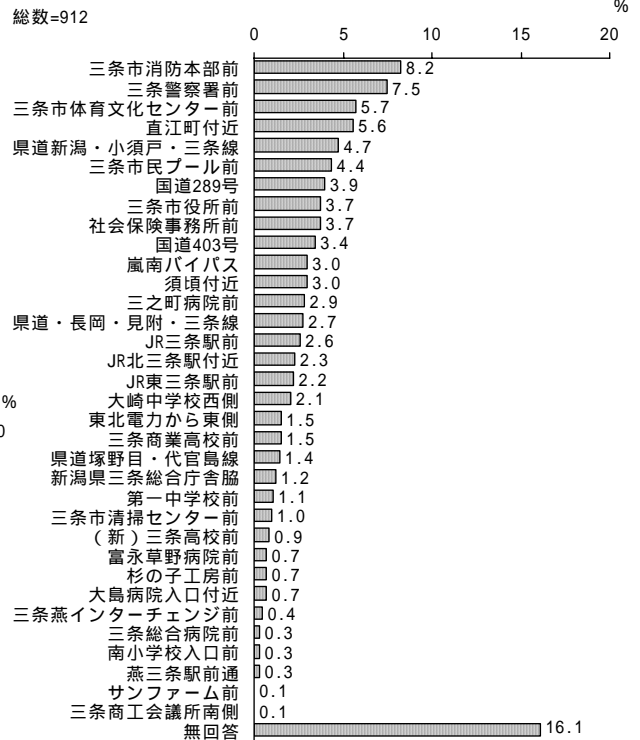
市街地において、最も頻繁に通過する箇所は、「三条市消防本部前」の8.2%が最も多く、「三条警察署前」「三条市体育文化センター前」が次いでいます。

利用頻度については、5回以内が51.3%を占めている状況にあります。

< 通過頻度 >



< 最も頻繁に通過する箇所 >



主要な業種について個別にみれば、金属製品、一般機械器具いずれの製造業も「直江町付近」「県道新潟小須戸三条線」が上位となっており、卸売・小売業、サービス業はいずれも三条市消防本部前 三条市体育文化センター 三条警察署前 が上位3位を占めています。

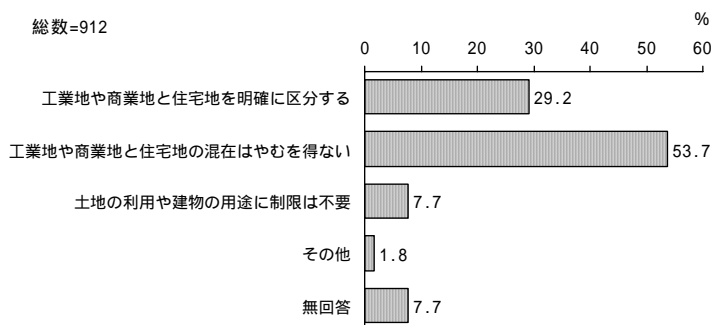
< 主要な業種別の回答 >

	製造業			卸売・小売業		サービス業		
	金属製品	一般機械器具						
第1位	直江町付近	8.1	県道新潟小須戸三条線 直江町付近	17.6	三条市消防本部前	9.3	三条市消防本部前 三条警察署前	9.0
第2位	県道新潟小須戸三条線 三条市消防本部前 三条市民プール前	7.2	-	-	三条市体育文化センター前	7.3	-	-
第3位	-	-	三条市消防本部前 三条警察署前 他 5箇所	5.9	三条警察署前	6.9	三条市体育文化センター前	6.3

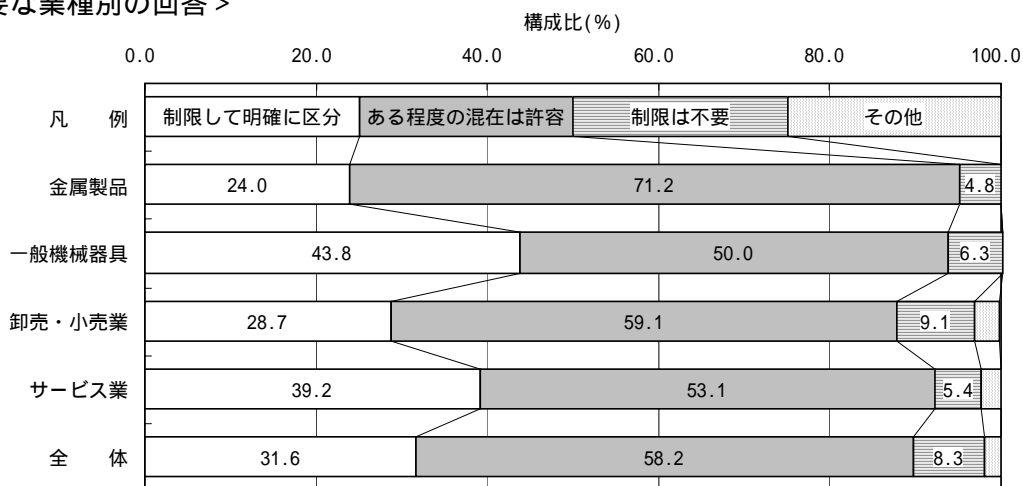
【土地利用等のあり方：土地利用・建築制限(問12)】

土地利用・建築制限のあり方については、「混在はやむを得ない」とする回答が53.7%を占めていますが、「制限を強化して明確に区分する」とする回答も29.2%に達し、「制限は不要」は少数にとどまっています。

主要な業種について個別にみれば、一般機械器具製造業とサービス業で「制限を強化して明確に区分する」、金属製品製造業と卸売・小売業で「混在はやむを得ない」とする回答が相対的に多くなっています。



< 主要な業種別の回答 >

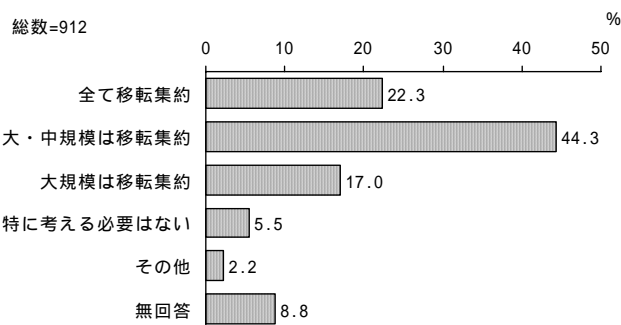


【土地利用等のあり方：工業地(問13)】

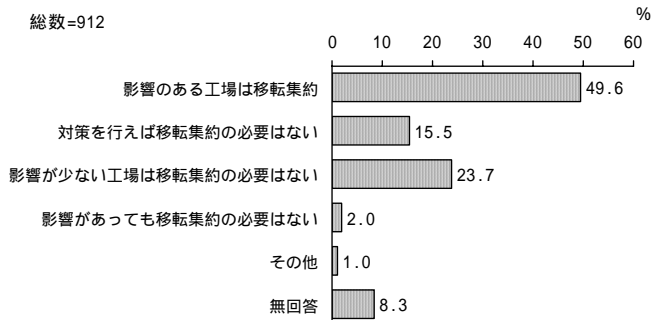
工場の立地のあり方については、「大・中規模は移転集約」とする回答が最も多くなっており、また「影響の少ない工場」や「対策を行った工場」の移転・集約は必要ないとする回答が相対的に少なかったことから、小規模で影響の少ない工場については、移転・集約は不要と考えていることがうかがえます。

また、「全てを移転集約」の比率が高かった市民アンケートの同じ設問と比較すれば、事業者は『小規模の工場は許容する』という考えにたっており、工業系土地利用に対する緩やかな制限を望んでいることがうかがえます。

< 規模による立地のあり方 >

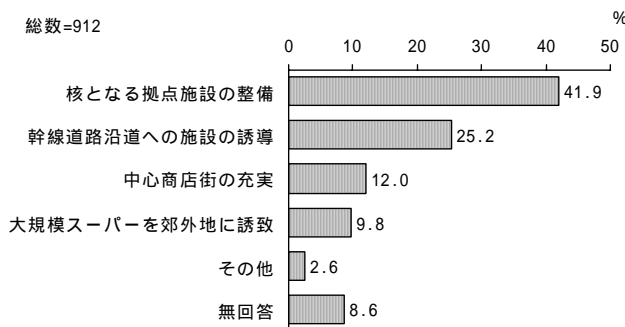


< 周辺への影響による立地のあり方 >



【土地利用等のあり方：商業地(問14)】

商業地のあり方については、「核となる拠点施設の整備と周辺商店街の一体的な活性化」とする回答が最も多くなっており、「幹線道路への施設の誘導」が次いでいます。一方、「中心商店街の充実」や「大規模スーパーを郊外地に誘致」は、相対的に少なくなっています。

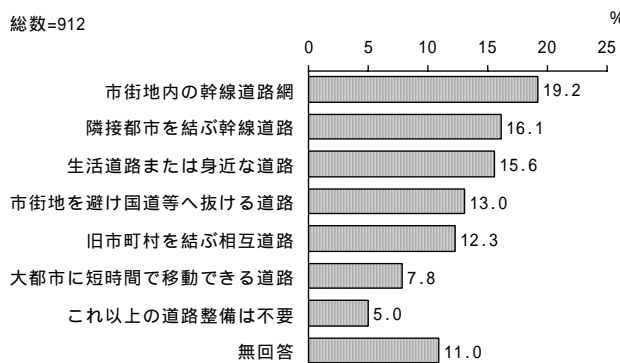


この結果は、市民アンケートの同じ設問とほぼ同じ結果ですが、やや「核となる拠点施設の整備と周辺商店街の一体的な活性化」の比率が高くなっています。

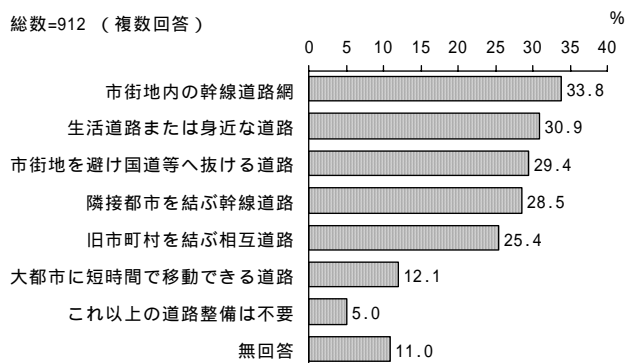
【整備を優先すべき道路機能(問16)】

今後の道路整備について優先的に進めるべきと考える道路機能については、「市街地内の幹線道路」が最も多くなっていますが、「隣接都市を結ぶ幹線道路」「生活道路または身近な道路」「市街地を避け国道等へ抜ける道路」「旧市町村を結ぶ相互道路」もほとんど差が無く、回答は分散しています。総じていえば、円滑な事業活動に寄与する「幹線道路」の整備が選択されているといえます。

< 優先順位 1 位 >



< 優先順位 1・2 位合計 >



【まちづくりへの協力・参加意向(問17)】

事業所としてのまちづくりへの協力・参加の意向については、「既に協力・参加」を含め、参加する意志があるとの回答が78.1%に達しており、今後のまちづくりに事業者の協力や参加を得られる可能性が高いものと考えられます。

ただし、「内容によって協力・参加」が62.5%と高い比率であることから、協力・参加に対する理解が得られるよう、その内容を十分に検討していくことが必要と考えられます。

